

令和 2 年 6 月 16 日現在

機関番号：72622

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03157

研究課題名(和文)12世紀アイユーブ朝における言論と伝達--書簡資料の利用による

研究課題名(英文)Statements and communication in 12th century Ayyubids on the use of letter documents

研究代表者

柳谷 あゆみ (YANAGIYA, Ayumi)

公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：90450220

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：12世紀アイユーブ朝期のアラビア語書簡資料が、現存数の多さにも関わらず、歴史研究上ごく一部しか利用されてこなかった状況に対し、広域に散在する書簡資料(写本、校訂本)を収集したうえで、内容・書式を整理し、内容分析を進めた。現存確認済みの写本・校訂本の7割～8割を収集し、さらに先行研究では言及されていなかった写本も発見した。

内容分析では(公的・私的書簡とも)差出人と宛名人の関係性がまず書式と人称使用に明瞭に示されることを事例に基づき証明し、基準を明示した。また往復書簡の分析により、書簡の伝達頻度・速度についても見通しをつけ、その成果を国際学会及びワークショップで報告した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、難解な修辭が多く部分的にしか残っていないため、研究利用が困難であった書簡資料について、書式・内容を整理し、基準を明確にしたことで、研究利用の足掛かりを作った。伝達された文言そのものである書簡を利用することで、アイユーブ朝期の外交・知的交流の実態を解明するうえで、より精緻な分析が可能になった。

また、近接地域・時代における書簡研究との対比を通して、本研究ではアラビア語の書簡作法において重視される点とアイユーブ朝期の書簡群の(後世における)有益性の所在を明らかにし、中世イスラーム世界の異なる人間・地域・文化をつなぐ書簡の起筆作法における共通性と相違性についても見通しを立てた。

研究成果の概要(英文)：Despite the large number of surviving Arabic epistolary materials of the 12th-century Ayyubid dynasty, in the historical studies they have been underutilized. Therefore, I collected the materials (manuscripts and revised versions) scattered over a wide area, organized their contents and format, and then proceeded with a content analysis. I collected 70-80% of the confirmed extant manuscripts and revised manuscripts, and also found some manuscripts that were not mentioned in previous studies.

The content analysis shows that the relationship between the sender and addressee (in both public and private letters) was clearly indicated in the format and the use of personage. I have presented this on the basis of a case study and have made the criteria explicit. The analysis of the correspondence also gave me a perspective on the frequency and speed of transmission of the letters. I presented the results at an international conference and workshop.

研究分野：中世イスラーム史

キーワード：書簡 アイユーブ朝 ザンギー朝 知的交流 文官 プロトコル 外交

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

12世紀アイユーブ朝期の歴史資料について、特筆に値するのは書簡資料の現存数の多さである。特に、アイユーブ朝創設者サラーフ・アッディーンの書記を務めたカーディー・アルファードイル起筆による書簡は、(全文ではないものの)約800通の現存が確認されている。書簡資料は、差出人・受取人の間でやり取りされた言葉そのものであり、その内容に加えて、言葉の選択・書式も分析対象とすれば、両者の関係性についてより精緻な分析・考察が可能になる。

しかしこれらの書簡資料は従来の歴史研究においては王朝史等に引用された一部外交書簡の抜粋が利用されたのみであった。書簡資料利用の困難は、書簡文が複雑な修辭を含み難解であること、現存書簡の内容がごく儀礼的なものも含めて多岐にわたること、また書式と差出人・宛先人の関係との関連性が具体的には十分解明されていないことに起因するものと考えられた。

さらに、現存が確認されている書簡も、その所蔵が中東諸国から英、仏、独国など広範な地域にわたり、純粋に資料収集の困難もあった。だがこの状況に対し、2010年代からS.Lederがカーディー・アルファードイルの書簡資料の収集・整理を開始し、混とんとしていた資料が整い始めた。S.Lederの事業はまず広域に散在する書簡資料の収集可能性の高さを示した点で意義があった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、12世紀のアイユーブ朝期の歴史資料として書簡資料を利用できる状況を整え、書式・内容を含めた分析を行うことで、当時の伝達と(知的)交流の実態を解明することである。

書簡資料は、スルターン名によって起筆される「スルターニーヤ」と、起筆者の名義で書かれる「イフワーニーヤ」とに大別出来る。したがって、より具体的には、前者からは政権間の外交上の関係と書簡における論点をより精緻な形で分析していくこと、後者からはスルターンより下位の知識人・文書官僚による知的交流の実態を見出すことを目的とした。さらに、その成果を近接する時代・地域における書簡資料研究の成果と比較・検討し、地域・時代による書簡作法の共通性・相違性を見通しをつけることとした。

3. 研究の方法

本研究は(1)書簡資料の収集(2)書式と内容の分類(3)内容分析の三点からなる。また(2)(3)にあたっては書簡資料だけではなく、アイユーブ朝期に関する先行研究および一次資料全般に基づく政治的・社会的・文化的状況の把握が必要である。また、近接する時代・地域における書簡資料の事例との比較という視点を取り入れられれば、その共通性とともにも独自の部分も見つけられる可能性がある。

研究代表者はレバノン、エジプト、アラブ首長国連邦、英国へと出張し、未校訂の写本資料と、校訂資料および研究資料の収集を行った。レバノンのドイツ東洋学研究所にはS.Lederが2017年まで在勤していたので(2018年に定年退職)彼の収集・整理事業の進行を確認し、書簡データベース実見のアポイントを取り付けていたが、先方に突発的な支障が生じたため、実見はできなかった。そこで、このデータベースとは別に書簡資料の収集・整理を行い、分析の材料とした。

書式・内容分析にあたっては、現存史料の大多数が全文ではない不完全な状態なので、書簡集編纂者の付記や、書簡で使用される尊称・挨拶・人稱をもとに差出人・宛名人を推測し、スルターニーヤ、イフワーニーヤの別を可能な限り明確にしたのちに、主な用向きを区分を行った。この整理の結果を受けて、内容分析を進めた。

近接する地域・時代の書簡資料との比較については、上記分析の成果より、差出人・宛名人の関係性の特色が明確にみられる(1)定型文(2)人稱使用の定型を軸として13・14世紀イランの事例との比較検討を行った。

4. 研究成果

カーディー・アルファードイルの書簡は、現存が確認されているうちの七割から八割を収集した。さらに、ドバイの個人図書館にて先行研究で言及されたことのない写本(現物はトルコ共和国内の所蔵)のデジタルコピーを発見し、従説以上の数が現存することが判明した。

書簡の分類と内容分析を行った結果、あらゆる書簡について(完全な私信に至るまで)差出人・受取人の関係性を反映した人稱使用の差異が認められることを確認した。この事実によって、部分引用のみの書簡からも宛名人のある程度の予測が可能になり、日付入りの往復書簡の内容分析により、文書官僚同士の私信の頻度と伝達の手数も大まかに推測できるようになった。これらの成果をもとに、まずイフワーニーヤから確認される文書官僚同士の書簡の作法と性質をまとめ、国際学会および国際ワークショップにて2件の報告を行った。さらに国内では、研究会で書簡研究の小セッションを企画し、より広範な、中世イスラーム世界における書簡資料・起筆作法について比較研究の視座を示した。

また、本研究においてアイユーブ朝期の歴史資料の傾向について考察し、書簡集を含め事例列記型で、手引書的な性格の資料が多いとの認識を得た。その成果であるアイユーブ朝期のバハ

ー・アッディーン・イブン・シャッタードと彼の著作についての英文論考が、Brill より刊行される十字軍期のムスリム資料論の選集に収録予定である（査読済。2020 年内刊行予定）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 谷口淳一	4. 巻 75
2. 論文標題 アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注（8）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 史窓	6. 最初と最後の頁 109-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 柳谷あゆみ	4. 巻 99
2. 論文標題 イブン・アルアスィール著『アターベク王朝モスルの諸王の歴史』写本（仏国立図書館蔵ARABE1898 旧番号ARAB. 818）再考	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東洋学報	6. 最初と最後の頁 91-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Ayumi YANAGIYA
2. 発表標題 I haven't received your reply yet : letter exchange of medieval Islamic intellectuals
3. 学会等名 5th World Congress of Middle Eastern Studies (WOCMES 2018 Seville) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ayumi YANAGIYA
2. 発表標題 Private letter exchange of intellectuals in medieval Arabic world: focusing mainly on al-Qadi al-Fadil and Imad al-Din al-Isfahani
3. 学会等名 2nd German-Japanese Workshop on Mamlukology (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----